

ぐんま教師塾の1年を振り返って

高校教育G地歴班 県立高崎北高校 奥野徳子

班別研修に対する所感

自分の授業をビデオで見ることは、自分の癖を客観的に確認できるよい機会でした。反省すべきは、教師の一方的な説明。“生徒が考え、気付けるような授業”を実現させるために研修を行いました。特に検討したものの1つが「発問の仕方」です。「～についてどう思うか？」という漠然とした発問では、生徒の多くは答えられませんでした。研修で『生徒が“答えられない”のは、教師の導き方が生徒の実態に合っていないから。段階を踏んだ発問を用意し、生徒の理解が徐々に深まるよう工夫すべき』と学びました。「発問」の意味と難しさを今更ながら実感しました。

多彩な講師陣による講義や講和に対する所感

鹿嶋真弓先生の講義「人の中で人は育つ」は感動でした。人間が人間として生きていく上で大切な「他者に興味を持ち、良さを認めていく」ことを、“教師から教わる”のではなく、活動をとおして“生徒が実感”していることです。私も、生徒が日本人としての良さに誇りを持ち、自分とは生きている時代も地域も環境も異なる他者の良さを知り、理解し合えるような世界史の授業を目指したいです。

授業参観協力校等での授業参観に対する所感

県立高校の世界史A（1年）を参観しました。そこでは自ら編集されました視聴覚教材を、タイミング・バランスよく使い、生徒の興味・関心を高め、理解を助けるものとして大変有効的と感じました。今回参観した授業を1つの目標とし、視聴覚教材の有効利用を検討していきたいです。

授業実践に対する所感

「生徒の興味関心を高め、気づきを促す世界史」の実現にむけ、資料から何が読み取れるかを生徒が考える時間を確保できるように、板書の時間を節約するためパワーポイントを利用しました。実際に考える授業を行ってみると、考えることに多くの生徒は意欲的で、考える十分な時間が確保できれば、生徒はじっくり取り組み、気付いたことを書けることに感動しました。「考える歴史の授業を受けたい」という生徒の要求にあった授業を用意しなければと思いました。